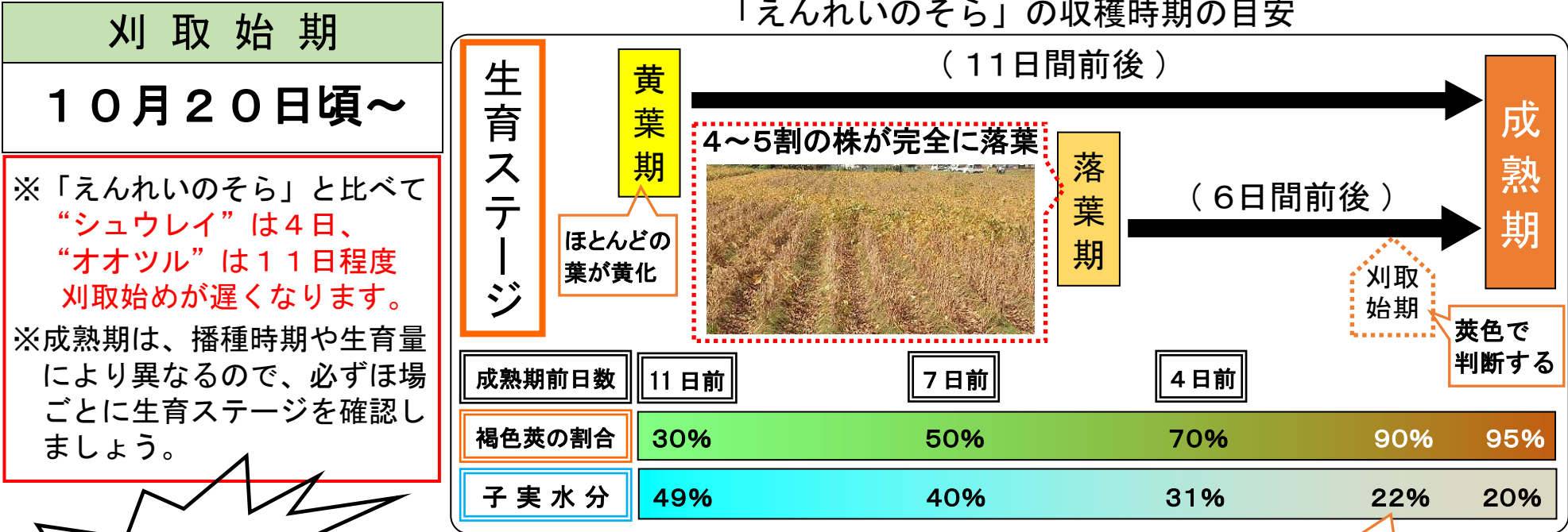


まもなく大豆の収穫時期となります。
「黄葉期」や「落葉期」を基に「成熟期」を予想し、莢の90%以上が褐色になった頃（子実水分22%）を確認してから刈取りを始めましょう。

1. 刈取始期の判定 ～刈遅れによる収量・品質の低下を防ぐ～

- ・ほ場毎に成熟期の目安をつけ、作業計画を立てましょう。
 - ・「えんれいのそら」では、莢の90%以上が褐色になった頃（子実水分22%）から刈り始めましょう。
 - ・「シュウレイ」、「オオツル」は、子実水分20%以下になったら収穫しましょう。
- ※子実水分20%以下の目安：ほとんどの株の莢が褐色となり、日中、莢を軽く弾いて音がする頃



しわ粒、汚損粒を
ださないように！

- ・刈り遅れると、しわ粒や腐敗粒が増加します。
- ・“茎の色が褐色になっていなくても”、莢色を優先して収穫してください。

しわ粒軽減のため
22%から刈り始める

2. 収穫作業 ～被害粒や汚損粒の発生を防ぐ～

- ・汚損粒防止のため、収穫前に帰化アサガオ類（写真1）やイヌホオズキ等の大きな雑草や青立ち株を必ず抜き取るとともに、土をかき込まないよう刈取り高さは地際から10cm程度の高さ（写真2）に調整しましょう。
 - ・収穫は日中（午前10時～午後4時）とし、莢が乾いていることを確認してから行いましょう。
 - ・作業速度は0.4～0.8m/秒（2.9km/時）程度とし、大豆の生育量が大きい場合は、更に速度を落とすなど、コンバインのつまりを防ぎましょう。
 - ・黒根腐病が発生したほ場は早期に落葉するため、刈遅れないようにしましょう。また、発病により小粒化するとともにしわ粒が増加するため、別刈りを行いましょう。
- 本病は土壌伝染性病害であるため、収穫作業は発生の無いほ場から行い他のほ場へのまん延を防ぐことと収穫作業後は機械を洗浄しましょう。



写真1 帰化アサガオ類



写真2 コンバインによる適期収穫および、適正な刈取り高さ

3. 次年度対 ～地力の向上・ほ場の乾きで収量向上、しわ粒の発生を防ぐ～

① 土づくり

- ・鶏ふん等の堆肥の施用や緑肥作物（レンゲ等）の作付け・すき込みにより、収量や品質の向上を図りましょう。
- ※レンゲの播種は、10月中旬までに行うとともに、しっかりとした排水溝を設置しましょう。

② 排水対策

- ・次年度の作付予定地は、地表からの排水を促すため、年内をめどに額縁排水溝を設置しましょう。
- ・心土破碎や弾丸暗渠の設置により透水性の改善を行い、ほ場の乾きを良くしましょう。

寒江大豆乾燥調製施設の荷受けは、10月20日（月）から行います。

～秋の農作業安全運動実施中(10月20日まで) 秋の土づくり運動(11月15日まで)～